

研修報告書

施設長	課長	主任	報告者

1. 研修名	学習療法シンポジウム
2. 参加者氏名	
3. 日時・場所	平成26年5月11日 福岡国際会議場
4. 研修内容	<p>「内容」「感想」「その他」欄は、内容に応じ記入欄の調節をして下さい</p> <p>.....当日のプログラムとして午前中に分科会、午後から全体会が開催される。分科会ではテーマ別にわかかれて多くの施設、事業所からの実践事例の発表が行われていた。学習療法とは、認知症の低下に関わってくる脳の前頭前野を活性化させ、認知症の維持、改善に大きな効果をもたらす。みかんの丘でも計算問題や漢字の読み書きなどを利用者に提供している場面があると思うが、その問題の程度はどうであろうか、簡単すぎる問題ではすぐに解けてしまうために難しい問題を提供していることが多いのではないだろうか。実は前頭前野を活性化させるには簡単な問題を間違えずにスラスラと解いているときなのである。逆に難しかったり、複雑な問題は、脳の活性化はそれほどみられない。これは科学的に証明されているとのことであった。また、学習中はほったらかしにせずに1対1もしくは1対2で行い、学習時間は10分～20分の短期集中、週に4日～5日の継続学習が基本とのことであった。採点する際も間違ってもそれを正さずに100点満点主義を実施し、学習中の節目節目で褒めることがより前頭前野の活性化に効果があるとのことであった。多くの施設、事業所では学習療法を取り入れ、利用者のMMSE（認知機能テスト）は改善がみられているとのことであった。またこれらは、利用者だけでなく職員にも影響を与えたと述べていた。それは、学習療法を行うことで利用者との関わりが増えたり、職員の観察力があがったり、利用者を様々な視点からみるようになったりなど職員の意欲向上にも大きな影響を与えると多くの施設が発表をしていた。実践事例を発表しているある施設では自立支援のツールとして学習療法があるとも述べていた。学習療法はコミュニケーション面の改善や認知症の周辺症状の緩和（暴力、帰宅願望、被害妄想）、認知機能面の改善など、認知症ケアの1つとして大きな役割があると感じる事ができた。</p>